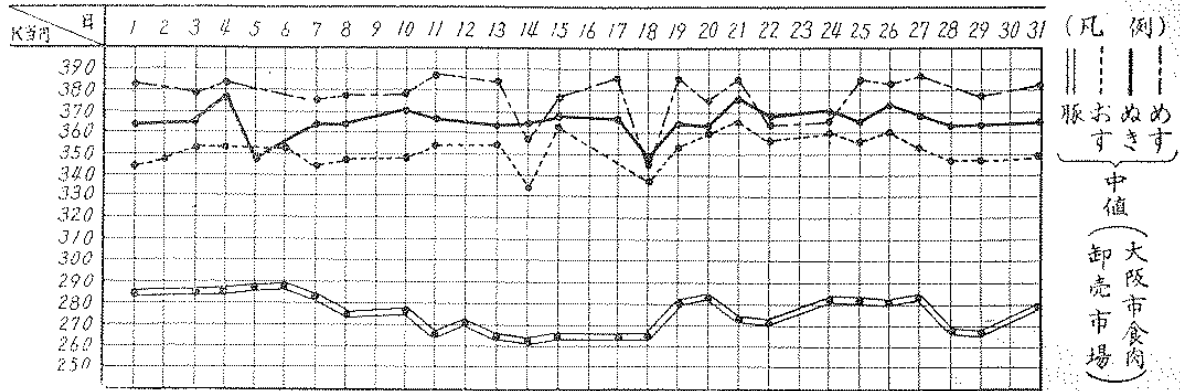


肉 畜 市 況 月 報

(36年7月)

大阪経済事務所



	団体名	畜種	頭数	平均単価	枝肉量 (kg)	売上金額				摘要
						枝肉	原皮	内ぞう	計	
共同出荷実績	県畜連	牛	49	—	10,770.5	4,347,840	228,130	172,310	4,748,280	中央畜産KK
	美作畜連	〃	1	416	249.1	103,620	4,700	3,980	112,300	大阪畜産KK
	真庭畜連	〃	1	320	106.5	34,080	4,700	1,700	40,480	
	岡山養豚	豚	103	—	7,031.1	1,830,640	—	66,730	1,897,370	中央畜産KK
	県畜連	〃	90	—	5,148.7	1,397,850	—	49,300	1,447,150	〃
	高陽農協	〃	68	—	4,242.9	1,127,960	—	40,300	1,168,260	〃
	東粟倉農協	〃	26	—	1,319.5	381,260	—	12,530	393,790	〃
	美作畜連	〃	257	—	15,065.7	4,119,100	—	145,930	4,265,030	大阪畜産KK
	経済連	〃	77	—	7,137.7	1,189,991	—	42,167	1,232,158	徳島ハム
美作畜連	雌羊	3	560	113.7	28,210	2,250	400	30,860	大阪畜産KK	

平均価格(相当)	36年7月		35年7月		と殺頭数 (大阪市場)	畜種	頭数	めす	おす	ぬき
	めす	377円	339円				牛	4,379	2,152	1,007
ぬき	365	323			仔牛	397	69	387	—	
おす	351	312			馬	35	31	6	46	
豚	280	344			豚	10,196	4,516	51	5,969	
					めん羊	36	23	11	2	

今月の牛は全体を通じて概ね低調であった。入荷は大体において幾分増加した程度で、平均しては月初めも月末も大差のないところである。前月に比較すれば20%程度増加している。なお前年同期に比較すれば牛は10%程度の増加である。価格の点においては先月に引続き軟弱な域を脱することが出来ず、依然として低調であった。今後は入荷量により相場も支配され基調の変動はしばらく見込めない模様である。

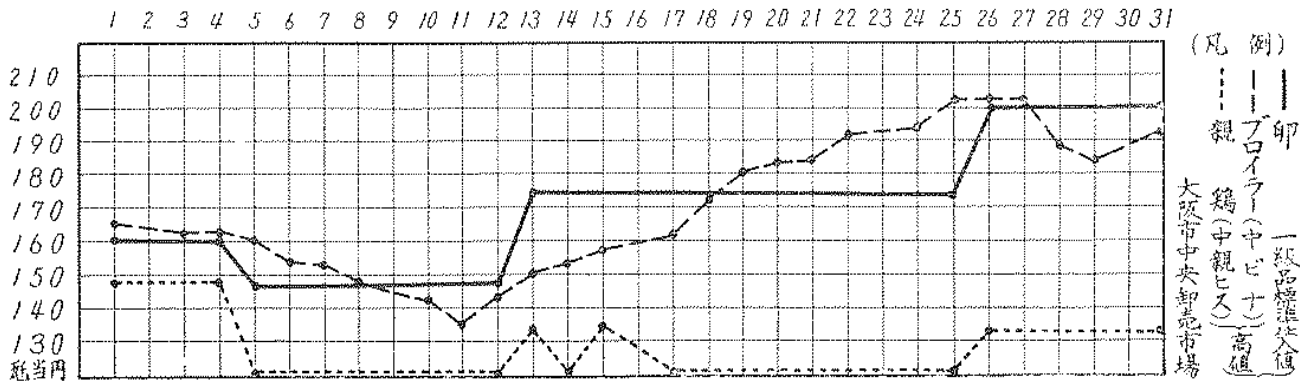
豚は月初め301円より始まったものが軟弱の一途を辿り、290円がらみの10円程度の下げで終わった。月平均価格は309円で、昨年同期に比較すれば頭数は約100%増加しており、価格は64円がらみの安値となっている。

食卵食鶏市況月報

(36年7月)

大阪経済事務所

価格推移



平均価格 (K当)	36年7月		35年7月		阪神地区入荷推定数量	共同出荷実績						
	卵	円	円	卵		プロイラー	親鶏	卵	プロイラー	親鶏		
		170	174		岡山	4,588,678	37,267	7,560	経済連	2,262,658	—	—
	プロイラー	170	204		香川	2,290,438	37,000	35,000	西大寺	226,265	—	—
	親鶏	127	173		大阪	1,355,830	50,000	30,000	美作	452,531	—	—
					その他	12,864,592	173,243	219,833	養鶏加工連	—	11,109	252
					計	20,999,538	297,510	292,393	計	2,941,454	11,109	252

鶏卵は上旬までは前月に引続いて安値で、大体において弱保合で経過して来た。中旬に至って懸念していた最悪の条件が一举に出揃い、即ち農繁期明けの滞荷が一斉に出廻り、加うるに降雨が続き、鮮度が悪い上に荷乱れのため破卵が多く、一方時期的に消費が停滞して、卵価は本年最低のK当り136円と言う安値をつけた。その後逐次持ち直し、下旬に至ってようやく不良品が消化されるにつれて、価格も一時を上廻る200円台に迫って来た。価格をふり返って見るとK当り165円に始まり、11日に136円の最低値をつけ、22日191円、24日は194円、25日に201円、26日27日は横這いして28、29日、189円、184円と下げたが月終りの31日には191円と再び上げ相場となり夏高相場の傾向を辿り始めた。月平均価格はK当り169円であった。又入荷量は前月と大差なく若干の増加を見た程度であった。

食鳥は肉鶏、産鶏共に入荷が多く、月間保合い状態で経過し、月末において若干見通しがつきかけた程度で、今後幾分好転の傾向を示しつつある。